

感染制御部

I プログラムの名称

慶應義塾大学病院 感染制御部 初期臨床研修プログラム

II プログラムの指導者

統括責任者

慶應義塾大学医学部感染症学教室

教室主任 長谷川 直樹 教授

研修医担当主任 宇野 俊介 助教

III 感染制御部の概要・特徴・特色

現代の感染症医療には、市中感染症の診断・治療に加えて、医療関連感染に関する知識とその対策、感染の予防に関する知識が要求される。これは病院だけではなく社会全体の要請である。そのためには、医師のみならず、すべての医療従事者にその知識と実践力が求められる。

本プログラムは、社会における感染症の重要性および感染症医、Infection Control Team内での Infection Control Doctor の役割を理解し、感染症診療および感染制御に関する基礎知識・技能および実践力を修得することを目標とする。また、当院での Antimicrobial Stewardship Team (AST) の活動に参加することにより、抗菌薬適正使用の考え方を身に着け、将来感染症関係の医療・医学に携わることを目指す研修医はもとより、他領域を専門とした場合でも、適切に抗菌薬を選択できる能力を養うことを目標とする。

IV 到達目標

厚生労働省による「臨床研修の到達目標」に準じる。

(1) 患者、家族、医師関係

- ・患者を全人的に理解し、家族と良好な人間関係を確立できる。
- ・医師、患者、家族がともに納得して医療を行うために守秘義務を果たし、相互理解を得るための話し合いができる。

(2) チーム医療

- ・医師、看護師、薬剤師、検査技師、医療事務スタッフからなる医療チームにおける医師の役割を理解し、各チームメンバーと協調し、医療・福祉・保険などに配慮した全人的な医療を実施することができる。
- ・指導医や専門医・他診療科医と適切なコミュニケーションをとれる。
- ・同僚医師、後輩医師への教育的配慮ができる。

(3) 問題対応能力(problem-oriented and evidence-based medicine)

- ・病態生理の側面、疫学、社会的側面などから患者の問題点を抽出し、必要な文献検索を行い、患者の問題解決や的確な診療計画の策定に利用できるように総合的に評価、応用できる。
- ・指導医や専門医、他診療科医に患者の病態、問題点を提示でき、議論を通じて適切に問

題点に対応できる。

(4)安全管理

- ・院内感染対策だけでなく医療安全対策に積極的に取り組み、医療現場における安全管理の考え方や方策、実践法を修得する。
- ・医療事故防止について、適切な行動をとり、事故発生時には、マニュアルに従って適切な対応ができる。

(5)予防医学

- ・予防接種（ワクチン）に関する基礎知識（種類、適応、接種時期、接種方法、接種後の観察方法、副反応、禁忌事項など）を修得する。

V 研修方略

A 基本的な診察法

1. 患者に不安を与えないように接し、必要な情報を聴取し、診察できる。
2. 患者の全身的プロブレムを把握することができる。
3. 適切な臨床検査をプランニングし、適切な検体を採取することができる。
4. 感染臓器を絞り込み、起炎菌を想定することができる。
5. グラム染色・抗酸菌塗抹染色など、迅速診断を実践できる。
6. 適切な empirical therapy と targeted therapy を行うことができる。
7. 検査結果・患者背景・診断に応じた抗菌薬を適切に投与することができる。
8. コンサルト医として、主治医に適切な対応ができる。
9. スタンダードプリコーションについて理解し、それを実践・指導できる。
10. 耐性菌検出者への対応について、適切な指示を行うことができる。
11. 流行性ウイルス性疾患（麻疹・水痘・風疹・ムンプスなど）・結核・インフルエンザ発生時に的確な指導ができる。
12. 予防接種（ワクチン）の適応・必要性について判断ができる。
13. HIV 感染症・AIDS の診断、治療について理解し、自立して診察を行える。
14. 血液暴露事故についての的確に対応ができる。

B 研修スケジュール

研修期間は原則1か月を推奨する。以下、1か月間の研修のプログラムを示す。

ただし、個々の研修医の希望、能力により構成を変更することがありえる。

<週間スケジュール（例）>

	8:30	9	10	11	12	1	2	3	4
月	微生物カンファ	病棟ラウンド			休憩	手指衛生調査	AST 抗菌薬レビュー		JC 準備
火	微生物カンファ	病棟ラウンド			休憩	手指衛生調査	AST 抗菌薬レビュー		JC 準備
水	微生物カンファ	病棟ラウンド			休憩	手指衛生調査	AST 抗菌薬レビュー		JC 準備
木	微生物カンファ	病棟ラウンド			休憩	手指衛生調査	AST 抗菌薬レビュー		施設環境ラウンド
金	微生物カンファ	病棟ラウンド			休憩	手指衛生調査	AST 抗菌薬レビュー		JC 準備
土	微生物カンファ	病棟ラウンド			休憩	手指衛生調査	AST 抗菌薬レビュー		JC 準備

B-1. 微生物カンファ 病棟ラウンド、AST：研修担当主任が統括する。定期的に新規耐性

菌検出患者・無菌部位からの培養陽性患者・特定抗菌薬（抗 MRSA 薬、カルバペネム系抗菌薬など）使用患者について、臨床検査技師、薬剤師、感染対策看護師、Infection Control Doctor で構成された Infection Control Team および Antimicrobial Stewardship Team で検討し、主治医・病棟医療チームに適切な対策・治療法を助言する。治療経過・対策法の効果を定期的に観察し評価する。また感染制御部に診療依頼された症例を病棟指導医、主治医とともに診察し、適切なアセスメントを行い必要な期間経過観察を行う。

B-2. 手指衛生調査：部長および研修担当主任が統括する。Infection Control Nurse とともに、直接観察法による病棟での手指衛生実施率調査を行う。研修を通し、感染対策に必要な手指衛生の実施タイミング、手技を習得するとともに、他者の実施状況を調査することを通して適切にフィードバックを行う能力を養う。

B-3. 感染制御部主催の講演会、勉強会、研究会、症例検討、セミナーなどに参加することにより、主要な感染症の病態，診断，治療等に関する理解を深める。また、毎日の Journal Club に参加することによって、感染症や感染管理に関する知識を習得するとともに、文献を批判的に吟味する能力を養う。

VI 研修評価

オンライン臨床教育評価システム (EPOC2:<https://epoc2.umin.ac.jp/epoc2.html>) にて、評価票 I II III の研修医評価、指導医評価、メディカルスタッフ評価を実施する。経験すべき症候/疾病・病態を当診療科にて経験した場合は、病歴要約の提出を確認し、EPOC2 にて承認を行う。2 年間の研修修了時には、評価票 I II III の各評価がレベル 3 に到達するよう指導を行う。